

# 阿蘇ロックフェスと女性たち

2015年5月30日(土)、熊本県野外劇場アスペクタ(阿蘇郡南阿蘇村)にて、壮大なロックフェスが開催されました。その名も「阿蘇ロックフェスティバル2015」。日本のミュージックシーンの第一線で活躍するアーティストが一堂に会した、まさに夢のような1日。その陰の立役者が、実は地元女性たちだったことをご存知でしょうか？ 仕掛人として奮闘した小泉朋さん、浜島玲恵さんに、イベントを企画したキツカケと、熊本の女性たちの活躍について伺いました。



## 泉谷しげるさんからの提案で企画がスタート

天草を舞台にした映画『女たちの都〜ワグゲンオッゲン〜』(2013年公開)をプロデュースし、熊本とのつながりを深めていた小泉さん。熊本の女性パワーを実感していた頃、知人である歌手の泉谷しげるさんからある提案が。

**小泉さん(以下、小)** 泉谷さんはいつも「九州の女性はスゴい」と言っていました。「九州の女性は実によく働くし、頼りになる。このことをもっと多くに知らしめたから、男を動かすロックなイベントを女性たちのチカラでやるぞー」という泉谷さんの提案で、「阿蘇ロックフェス」は走り出したのです。最初、私は「村祭り」ぐらいの規模で考えていたのですが、泉谷さんは5000人規模で考えていて、ビックリしました(笑)。それで、現地で誰と一緒に企画するかを考えたら、パッと思い浮かんだのが浜島さんだったのです。映画のPRを兼ねて、天草のハイヤ踊りをさまざまなイベントで披露していた時に会ったんですが、一緒に仕事をする、前に出てくれたり、ちょっと後ろに引いてくれたり、そのバランスがすごく気持ち良くて。多方面へのつながりも強く、仕事ぶりもマメだから、ぜひ一緒にしたいと思いました。



株式会社 桃 MOMO

代表取締役 **浜島 玲恵さん**

水俣市出身。熊本市内にある制作会社を退職後、「男子世界ハンドボール選手権大会」「くまもと未来国体」などのプロジェクトや雑誌の編集などを経験。2002年に会社設立。「人の心を桃色にする仕事に励む」をモットーに、イベント、番組制作、プライダル事業等、企画・運営に留まらず、それに関わる人材の育成、派遣も行っている。「くまモン座」等プロジェクト事務局も多く担当。

株式会社テトラカンパニー

代表取締役 **小泉 朋さん**

映画プロデューサー。黒沢清監督をはじめ井筒和幸監督、塩田明彦監督、阪本順治監督などの映画を中心に約50以上の作品に携わり、2010年2月『株式会社テトラカンパニー』を設立。天草・牛深を舞台にした映画『女たちの都〜ワグゲンオッゲン〜』(2013年)でプロデューサーを務める。3Dコンテンツから市民参加型映画まで、現場で培ったノウハウを生かして活動中。

**浜島さん(以下、浜)** 泉谷さんは社会問題にも積極的に取り組んでいる方で、「エンターテインメントのチカラで地域を元気にしたい」と考えていました。「政府がいくら女性のチカラが必要だと言っても、まずは環境を整えないといけない」とも。ロックフェスを女性が企画すること、この問題に一石を投じたいという思いがあったように思います。



## エンターテインメントで地域活性化

**小** 出演者やスタッフに大好評でしたね。みんな「おいしいー」「また来たいー」って。南阿蘇のおいしい素材とおもてなしの熱意が皆に伝わったと思います。(ケータリングの詳細は番外編(裏表紙)に掲載)

大盛り上がりとなった「阿蘇ロックフェス」。キャリーぱみゅぱみゅや東京スカパラダイスオーケストラといった人気アーティストの競演もさることながら、やはり驚くべきは、地元の女性たちが企画・運営して成功を収めたという点。「大きなイベントや地域活性化は、知識や経験がないと難しい」そんな先入観を見事に打ち砕いた好例といえます。

## まずは仲間探し、つながりを大切に

壮大なフェスの実現に向かい、まず始めたのは「仲間探し」だったそうです。「あの店の女将さんはキーマンだよ」「この奥さんは元気がいいよ」など、現地の方がいろんな情報を持って来てくれることに、「じわじわ熱が広がっている」ことを実感したという小泉さん。特に「ケータリング(食事の用意・配膳)」という分野で、地元の方は大きなチカラを発揮してくれたといいます。

**浜** フェスの当日には出演アーティストやスタッフ向けのケータリングを用意したのですが、それはすべて地元農家の女性たちにお願いました。来年また実現させるためにも、おいしいご飯で胃袋をつかむのは重要なんです。

は900人ほどに膨れあがっていました。本当にたくさんの方が運営に関わってくれたのですが、

これも「女性」が核となったことが大きかったように思います。私は男性と女性では豊かさのベクトルが違つと感じていて、男性の方がビジネスに直結させて考える人が多いような気がします。「これをやればいくらになるか」とか、「この人は利益につながるか」とか。女性の方が条件や理屈ではなく、「ワクワクする」とか「楽しそう」といった感覚で行動してしまえる人が多いと思うんです。共感できれば、細かいことを気にせずに手伝ってくれるんですよ。女性はいろんなことを受け入れながら、繋いでいけるチカラに長けていると思いますね。

**小** 泉谷さんが「エンターテインメントで地域活性化」というキーワードを入れてくださったのですが、まさにそのとおり。地域も、人も元気になるフェスだったと思います。実は来年も開催が決定したんですよ。今回、反省する点もたくさんありましたので、次回はさらに良いイベントになるよう、頑張りたいと思います。ぜひ遊びに来てください！



「阿蘇ロックフェス」当日の様子。あいにくの雨ながら、たくさんの方が集い、会場は熱気に包まれていました。

**予告**  
**「阿蘇ロックフェス」**  
**Vol.2の開催が決定!**  
 2016年5月28日(土)  
 詳細はfacebook  
 「阿蘇ロックフェス」をご覧ください。